

## 編集後記

筆者は、1994年に理工学部機械工学科に入学し、2000年に理工学研究科機械工学専攻修士課程を修了した。筆者が学生の当時ご指導いただいた多くの先生が定年を迎え、筆者が修士課程を修了後に着任された教員が当学科・専攻において教育研究に従事している。もちろん筆者もその一人である。筆者が学生であったときに当学科・専攻で行われていた研究を思い出すと、全てを知っているわけではないが、多くの研究は正に「機械工学」の王道の研究内容であったように思う。現在では、多くの研究室で実験に加え数値解析やAIも応用し、航空宇宙工学は勿論、人間の体に関する研究分野などにその方向を拡大している。

余談ではあるが、筆者は2001年にストックホルム国際青年科学セミナーに参加する機会を得た。セミナーの活動の目玉と呼ぶべき活動は、ノーベル賞授賞式とその後の晩餐会への出席である。そのセミナーの活動の中で、幸運にも1998年にノーベル化学賞を受賞した研究者の講演を聞く機会に恵まれた。その講演の中で、これからの科学の発展においては、分野融合が重要であると語られていたことを強く記憶している。

現在、機械航空宇宙工学科で行われている多くの研究が正に分野融合に基づいて発展しているように感じている。その一つの大きなベクトルが航空宇宙工学分野の研究である。これまでに機械工学科として培ってきた四力学の強力な基礎教育をベースとして、外部研究機関と協力しながら航空宇宙工学への応用が様々な展開している。

理工学部機械工学科が創域理工学部機械航空宇宙工学科に名称変更したのは2023年4月であり、現在その第1期生が第3学年の学生として在籍している。1年後には第1期生の卒業生が誕生する。このように創域理工学部機械航空宇宙工学科は、名称変更とともに「離陸」したところであり「飛行中」である。1年後に第1回目の「着陸」を行うことになるが、その時に卒業する学生の姿に期待して欲しい。また、学科としてもその「着陸」した学生の姿を見ながら、さらに機械航空宇宙工学科の飛行ルートを再検討し、継続的に進化を続けていく予定である。これから当学科・専攻への入学を志す学生は、当学科・専攻のこれからの進化を常にウォッチして、大きな期待と希望を抱いて入学してきて欲しい。

〔高橋 昭如：創域理工学部〕

## 次号予告

### 特集：人と環境のセンシング

- 特集について
- 空気環境のセンシング
- 材料をマイクロ・マクロで測る
- 行為と空間の関係を記録する
- アナログ/デジタルで人の動きを捉える
- 統計調査と地図

### 編集委員会 編集委員

(2025年3月31日現在)

|       |                    |
|-------|--------------------|
| 渡辺 一之 | 名誉教授               |
| 松田 学則 | 理学部第一部 応用化学科       |
| 小谷 佳子 | 理学部第二部 数学科         |
| 西尾太一郎 | 理学部第二部 物理学科        |
| 橋詰 峰雄 | 工学部 工業化学科          |
| 藤沢 匡哉 | 工学部 情報工学科          |
| 原田 陽介 | 薬学部 生命創薬科学科        |
| 早瀬 仁則 | 創域理工学部 機械航空宇宙工学科   |
| 塚本 良道 | 創域理工学部 社会基盤工学科     |
| 増田 信之 | 先進工学部 電子システム工学科    |
| 梅澤 正史 | 経営学部 ビジネスエコノミクス学科  |
| 佐藤 憲一 | 教養教育研究院 野田キャンパス教養部 |



野田キャンパス中庭 満開の桜

SCIENCE  
FORUM 科学フォーラム

通巻 446 号  
(創刊 1984 年 7 月)

2025 年 4 月発行 / 第 42 巻 2 号

発行人 浜本 隆之 (学校法人 東京理科大学理事長)

編集人 佐々木 健夫 (編集委員会 委員長)

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂 1-3

TEL : 03-3260-4271 (代)

<https://www.tus.ac.jp/about/information/publication/forum>



お問い合わせは、本学広報課をお願いします。

TEL : 03-5228-8107, FAX : 03-3260-5823

理大 科学フォーラム編集室 (担当: 亀山 亜土, 坂口 奈織美)

e-mail : [henshu@admin.tus.ac.jp](mailto:henshu@admin.tus.ac.jp)

落丁・乱丁本はお取替えいたします。

印刷・製本 精興社

禁無断転載